

# Q&A 先月の技術相談から

## 体育館床の維持管理について

Q：最近、「体育館、水拭きをしないで」という新聞記事を読みました。体育館で大けがをした事故があって、それを調査した消費者庁が出した報告書についての記事でしたが、もう少し詳しい内容を知りたいので、教えてください。

A：おたずねの報告書は、消費者庁安全調査委員会（通称、消費者事故調）が平成29年5月29日付けで公表した「体育館の床板の剝離による負傷事故」という報告書です。

この中で、調査委員が文部科学大臣に対して「水拭き及びワックス掛けは、床板の不具合発生の観点からは行うべきではない」と意見しています。要するに、「水拭きや水性ワックス掛けは水分で床を痛めることになるので、体育館床のメンテナンスをするときには水を必要以上使ってはいけない」ということを、国民に周知徹底させなさい、と言っているわけです。

体育館床は、木材の優れた弾力性能や衝撃吸収能力を最大限生かし、バレーボールやバスケットボールのようなスポーツが快適にできるよう設計されています。

しかし、木材は使い方を間違えると予想外に早く

劣化しますので、長く安心して使うためには、木材に対する正しい知識と的確なメンテナンスが重要ですよ。

この報告書の中で重要なのは結論と再発防止策です。

意見は再発防止策を具体的に説明したものと考えて良いでしょう。意見の項目の方が解りやすいので、これに沿って説明します。

### ■事故のリスク及び維持管理の重要性の周知

まずは、この報告書の内容を体育館の所有者及び管理者に対して周知徹底する事としています。

アンケート調査で、事故の危険性を感じている施設管理者が5割を超えていることが判りました。そのほとんどが対策をしたいと考えていますが、費用やメンテナンス時間の捻出に苦慮していることも判りました。

これを踏まえて、次の意見が出されています。

### ■適切な維持管理の取組

ここでは木材に対する知識を基に、点検や清掃を行うときに気をつけなくてはならないことが書いてあります（図1）。

#### スポーツフロア・維持管理の心掛け

1. 体育館の使用前・使用後は体育館専用のモップで清掃してください。  
○水拭きは避けてください。
2. ワックス掛けは避けてください。  
○ワックスは塗布後1か月くらいから滑りやすくなります。  
○ヒールマーク（靴でこすれた跡）が著しく付きます。
3. ラインテープを貼る場合の注意。  
○床塗装後3か月以内はテープを貼らないでください。  
○専用のラインテープを貼り、使用後は速やかに剥がしてください。
4. 体育館は土足禁止とし、入口にはマットを敷いてください。  
○外部からの水分・ワックス・土砂の持ち込みを防いでください。  
○土足で使用する場合は、フロアシートなどで床を保護してください。
5. 傘などの尖った物・硬い物の持ち込みは禁止してください。
6. 重量物を移動する時は、合板などで床を保護してください。
7. 許容荷重以上の重量物を持ち込むときは、床下地メーカーに相談してください。

出典：「スポーツフロアのメンテナンス」（平成27年5月11日4版）p.18を基に作成

図1 管理者向けの注意表示例（消費者事故調報告書より引用）

木材は、水を吸います。そして、水の量が一定量を超えると柔らかくなり、割れやすくなります。従って過度の水拭きや水性ワックスの塗布は、床を壊しやすくしていることとなります。また、ワックスについては床を滑りやすくする点にも注意する事としています。

床のどこが割れやすくなるかなどの知識は、事故の例を挙げて本文や参考欄に詳細な写真や図とともに示されていますので、こちらを参考にして下さい。

そして、日頃の点検と記録、さらに計画的な長期の補修計画を立てて補修するよう求めています。

また、外から砂などの硬いゴミが入らないよう配慮することや、バスケットボールのゴールポストやピアノのような重量物を移動するときは、保護板を使うなど床を痛めない配慮が必要であるとしています。

最後に不明な点は専門業者などと相談するよう求めています。

## ■消費者事故等の通知

事故があったことを文部科学省に報告することとされています。

この報告書は、参考に示してあるURLから、どなたでも見ることができます。また、林産試験場では、より安全な体育館床を造るために必要な技術や、体育館床に発生した異常を検知する技術を研究しています。成果がまとまり次第、報告しますのでご期待下さい。

### 参考

消費者庁消費者安全調査委員会報告書「体育館の床板の剝離による負傷事故」

[http://www.caa.go.jp/policies/council/csic/report/report\\_010/](http://www.caa.go.jp/policies/council/csic/report/report_010/)

(最終検索 平成29年7月7日)

(技術部 製品開発グループ 近藤佳秀)